

木野通信 KINO PRESS

KINO PRESS Issue 57 | 京都精華大学広報誌

木野通信

京都精華大学
MAR. 2013 Issue 57



巻頭 教員インタビュー

研究者・末次智が探る、 時代を超えたうたの普遍性。

— 沖縄の「おもろさうし」と「初音ミク」に共通する力とは —

57
号

特集 01 FEATURES 01

- 04 巻頭 教員インタビュー
研究者・末次智が探る、時代を超えたうたの普遍性。
— 沖縄の「おもろさうし」と「初音ミク」に共通する力とは —

- 10 人文学部カリキュラム紹介

特集 02 FEATURES 02

- 12 2012 年度卒業・修了制作展レポート
コラム 1 京都を拠点に作家支援を行うギャラリストにきく／コラム 2 「セイカウィーク 2013」も同時開催

大学ニュース NEWS

- 14 大学院芸術研究科生が「シャージャ・ビエンナーレ 11」に参加／「セイカファンクラブ」発足／岡本清一記念講座にて、高橋源一郎氏と古市憲寿氏の対談を開催 ほか

連載企画 REGULARS

- 20 研究室探訪 人文学部 ウスビ・サコ研究室をレポート
教員のブックレビュー デザイン学部 井上斌策先生が選ぶ「通説の対極から世界を知る」本
セイカ事典 た行
- 22 イベント紹介 デザイン学部建築学科・連続レクチャーシリーズ／ギャラリーフロール展覧会／京都国際マンガミュージアム展覧会
- 23 精華で学びたい方へ 2013 年オープンキャンパスの日程が決定／2014 年度大学案内、入学試験要項は 4 月下旬に発行
- 24 京都精華大学の原点 第 4 回『京都精華大学をかたちづかった言葉たち』
- 26 ○○を語れ 第 4 回『大学』

京都精華大学 学部・学科・コース

■ポピュラーカルチャー学部※

- ◎ポピュラーカルチャー学科
音楽コース／ファッションコース

■芸術学部

- ◎造形学科
洋画コース／日本画コース／立体造形コース
- ◎素材表現学科
陶芸コース／テキスタイルコース
- ◎メディア造形学科
版画コース／映像コース

■デザイン学部

- ◎イラスト学科※
イラストコース
- ◎ビジュアルデザイン学科
グラフィックデザインコース／デジタルクリエイションコース
- ◎プロダクトデザイン学科
プロダクトコミュニケーションコース／ライフクリエイションコース
- ◎建築学科
建築コース

■マンガ学部

- ◎マンガ学科
ギャグマンガコース※／キャラクターデザインコース※／カートゥーンコース
ストーリーマンガコース／マンガプロデュースコース
- ◎アニメーション学科
アニメーションコース

■人文学部

- ◎総合人文学科

※ 2013 年 4 月設置予定

研究者・末次智が探る、 時代を超えたうたの普遍性。

— 沖縄の「おもろさうし」と「初音ミク」に共通する力とは —

text by KIN Toyo, photographs by ARIMOTO Maki

『おもろさうし』研究の醍醐味を末次は「未だ解明されていない点が多いこと」だと言う。「おもろさうし」とは琉球王国の首里王府が12世紀から17世紀にわたって沖縄・奄美諸島に伝わる歌謡を編纂した沖縄最古の歌謡集だが、今では使われていない琉球古語が多く用いられているため、内容も完全にはわかっていない。また歌謡集とはいえ、どんなメロディでうたわれていたのかもほとんど不明だし、多くのうたについてそもそも誰がどこでうたっていたのかさえ謎なのだ。多くのうたについて『おもろさうし』の研究とはそんな謎を解明していく作業である。

一般的にはこれを島々村々でうたわれた庶民のうたとするのに対し、末次は宮廷の非常に限られた空間でうたわれてきた。聖なるうたであるという説を展開してきた。昨年10月には今までの研究をまとめた『琉球宮廷歌謡論―首里城の時空から』（森話社）を上梓。独自の視点からの琉球王権に関する歌謡や神話の研究が評価され、昨年11月には沖縄学の研究者を対象にした「沖縄文化協会賞」で仲原善忠賞（文学・芸能部門）を受賞した。

末次は、沖縄言葉で言うところの沖縄人（ウチナンチュ）ではなく本土の人間、大和人（ヤマトウ

ンチュ）だ。なぜ大和人である自分があえて琉球古典を研究するのか、という問いを常に自問自答してきたなかで、末次が自然と辿り着いたテーマがふたつある。それは《日本とは何か》、そして《うたとは何か》である。

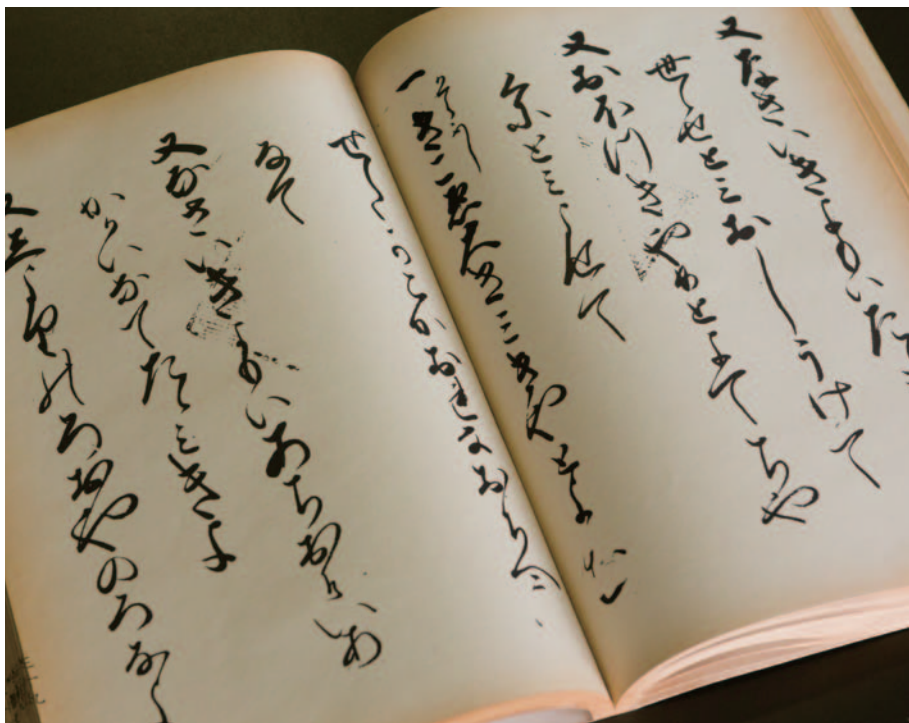
気候も文化も特殊な沖縄は、はたして本州の文化とそのルーツを同じくするのだろうか。辺境には中央のエッセンスが現れるという考え方からいくと、沖縄を掘り下げていく作業は、自らのルーツを探る旅でもある。我々が日常的に《日本》と呼んでいるものとは一体何なのか。

また、《うたとは何か》という問いについては、有史以前にまで遡ってうたのルーツを探ると同時に、現代の若者たちの音楽にまで対象を広げることで、うたの普遍的な力、役割を考察する。末次の研究はもはや純粹なる日本文学の範疇を自在に超えており、そのユニークなアプローチは実に現代的感覚に溢れたものだ。

沖縄と本州（北海道から九州までの呼称）、『おもろさうし』と初音ミク。一見交わることもなさそうなベクトルに位置する2つのものを、巧みにたぐり寄せてみれば、そこにはひとつの真実が見えてくる。

末次 智 SUETSUGU Satoshi

人文学部教員。奄美・沖縄の文化、とくに琉球王国論が専門。立命館大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程単位取得。著書に『琉球の王権と神話』、『琉球宮廷歌謡論』、論文に『Cocco 論序説、あるいは、ウタの始まり』、『身体音楽』等。最近、ヒトの「身体」と世界観に関心がある。2012年に「沖縄文化協会賞 仲原善忠賞（文学・芸能部門）」、2013年に「日本歌謡学会 第30回志田延義賞」を受賞。



沖繩にハマった大和人

僕はもう学生の頃から慢性沖繩病の症状なんです。出身は福岡ですが、さらに南方への憧れみたいなものが子どもの頃からありまして、大学で琉球大学へ入りまして、はじめて沖繩の地を踏んだ時のことは今でもよく覚えていま

す。空港についた途端にもう空気が違う。3月なのにむわーとしていてタクシーにはクーラーがかかっていて。同じ日本なのにまったく異なる風土があることに大きなショックを受けました。その頃は小泉八雲のファンで、日本文学を学ぼうと思っていました。ところが琉球大学の国文専攻はとて

特殊なところで、琉球文学という今まで全く聞いたことのない琉球の古典の世界を習う科目があるのです。この科目がある大学は日本にはほとんどありません。国文の学生の多くが地元沖繩の出身者、そんな先輩たちに誘われて2年生から沖繩方言研究会というところに入会しはじめました。その会は『ひめゆりの塔をめぐる人々の手記』を書かれた仲宗根政善先生のご自宅で毎週金曜日開催されていて、学生だけでなく一般の方や研究者、学校の先生方が集まって「おもしろさうし」について研究するのです。はじめは末席を汚していただけなんです、そのうち自分でも調べて発表したりするようになると、だんだんおもしろくなってくるんですね。自分から興味を持てばこんなに勉強しておもしろいんだ、ということを知り、沖繩ではじめて知りました。

未開拓の研究分野

源氏物語や平家物語など日本を代表する古典は、先人たちによつてすでに研究し尽くされています。古事記や日本書紀なんて平安時代から研究が始まっていて、その研究史を押さえるだけでも、生涯が終わってしまうですよ。ところが『おもしろさうし』の研究がは

じまったのは近代以降です。明治12年に琉球王国が明治政府によって沖繩県とされ、王が東京へ連れて行かれたことで、琉球王国は終焉を迎え、『おもしろさうし』をうたう役割を担っていた安仁屋（あにや）家も途絶えてしまふ。それが『おもしろさうし』歌謡の最期です。研究が始まったのはそれ以降ですから、その歴史はまだ100年ほど。今でもわからないことだらけなんです。それをこれからの研究者は一つひとつ明らかにできる。そういう意味でも魅力がある研究分野なのです。だから、当時学生だった僕は自分でも新しい発見ができるんだ、ってすごく楽しかったですね。まるでミステリーを解いていくようなおもしろさを感じました。また一緒に研究している人たちもおもしろくてね、みんなで謎を解き明かしていこうという妙な連帯感があるんですよ。

でも大和人の僕が『おもしろさうし』を研究するのは沖繩の人がやるのとはやはり違うんです。『おもしろさうし』は琉球の万葉集と言われていて、万葉集が日本人の心の原型と言われるように、『おもしろさうし』も沖繩人の心を表していると言われます。だから多くの沖繩人の研究者は『おもしろさうし』を自分たちのアイデンティティが

現れた歌謡集として見ていて、島の風俗を庶民がうたったものとする説が多い。でも僕はこれは宮廷という特殊な空間でうたわれる特殊なうたが中心にあるという立場をとってききました。僕にとつて『おもしろさうし』は自分のアイデンティティとは別の次元にあるもの、むしろ外国の文学みたいなものなんです。外側から沖繩をみている僕の『おもしろさうし』研究の視点はちよつと特殊なんです。昨年「沖繩文化協会賞」をいただけたのは、長い間その考えを唱えてきたことが評価されたのだと思います。僕にとつては、沖繩の研究者が中心となって作った歴史ある研究会で、大和人である僕が沖繩の人に認めてもらえたことがうれしかったですね。大好きな沖繩にどんなに近づこうと思っても、僕は沖繩人にはなれなくて、一抹のさみしさを感じてきました。でもなんとか受け入れてもらえたな、という気がするんです。

日本とは何か

沖繩に行つて気がついたのは、一言で日本といつても様々な世界がある、日本はひとつじゃないということ。ほとんどの人が日

本らしさという、京都や奈良に代表される文化を思い浮かべますが、それつて実は関西というひとつの地域における日本らしさではないんですよ。そのことに気づいてから、誰かが「日本」と発する時、その人の認識のなかに沖繩が入っているのだろうかというところが気になるようになり、自分が気になるようになり、担当している授業に《南島文化論》がありますが、これは日本とは何かということを掘り下げる授業。「君たちが思っている日本だけが日本じゃないんだよ」なんて学生に対してたくさん揺さぶりをかけて、学生たちの意見を引き出しています。

自らは何かと問いかけた時に、たくさんルーツが混ざり合っていてはつきりしないという方が世界的には普通なんだと思うんですよ。なのに日本人は日本を単一のものだと思いつている気がします。そんな考えの根本には、古代より日本の隅々までいざわたつていて天皇制があると思われています。歴代の王をトップに据える琉球、沖繩はやはり、本州とは異なる固有性があります。蝦夷なんかもうです。そういうローカリティの強い地域も含めて日本なのに、そのことを日本人はあまり認識していない。だからこそ、僕は

なぜ人にとつてうたは特別なのか

僕は授業中に学生にアンケートをとるのですが、「あなたにとつてうたは必要ですか」「あなたはうたなしで生きていけますか」と聞くと、9割以上の学生がうたなしではやっていけないと回答したのです。これつてすごいことだと思いませんか。衣食住に全く関係ないにも関わらず、うたなしでは生きていけないと言っているんですよ。なぜうたは人間が行う様々な表現のなかでも特別な力を持つので



末次ゼミの現場から

末次が担当する「プロジェクト演習」という授業では、沖縄や奄美大島の現地を訪れる。そこでは、下記のようないくつかのテーマのもとにチームにわかれてシマの人々（講師）と交流することで、島の風土や文化、人々の暮らしについて学ぶ。

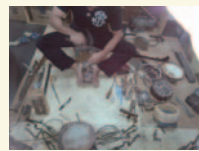
シマウタを学ぶ

三味線工房の見学、シマウタの師匠についてウタを教わった。その成果は、島の人々との交流会で披露された。



三味線制作

三味線をつくる職人のもとで、その歴史から部品の名称、三味線の弾き方等を教わった。また、実際に三味線制作の体験も行う。



焼酎醸造体験

奄美の酒造に通い、黒糖焼酎の製造工程を見学する。特産品の生まれた奄美の風土と文化について学ぶ。



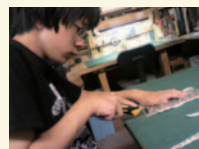
大島紬を着る

奄美の伝統工芸である「大島紬」。組合の見学や泥染め体験、そして実際に紬を身にまどってみた。



ハブ製品制作

ハブの皮や骨を用いた工芸品を制作する若手職人のもとをたずね、制作体験。若者と島の関わり方、新しい工芸のあり方について学んだ。



しょうか。

僕は万葉集や古今和歌集の一首一首もうたと呼びますし、最近の歌謡曲、Jポップもうたと呼びます。同じうたという言葉で呼ぶ以上は、呼ぶ僕らの側で必ず何か共通するものを感じているはずなんです。うたのもつ普遍性とは何か。それを知るために、僕はうたの起源がどこにあるのかを探っています。

『おもしろさうし』研究を通して僕が考えたのは、やはりうたとは日常の表現ではなく聖なる表現、神と結びついた特殊な表現だということ。神が降りてくる時にうたわれるというところに、ひとつのうたのルーツがあるのではないかと。『おもしろさうし』は全部



けでは息苦しいんですよ。

研究のヒントは学生たちがもたらしてくれる

ボーカロイドのうたって、ネット上で複数の人がつくるものから特定の作者が目立たないんです。でもうたってというのは本来、詠み人知らず、なんです。松任谷由実が最近インタビューで「そのうち自分のうたが詠み人知らずとなつてうたわれるようになればいい」というような発言をされていて、僕はこの人はなんてうたのことがよくわかっている人なんだと感動したことがあります。このうたは誰のうただい、なんて言い出したのは恐らくここ100年くらいです。うたはただうたがいいか

で1554首。いろんなジャンルのうたがありますが、一番の核心は王の権力を讃えるうたで、もともとはノロ（神女）といわれる女性がうたっていました。昔から聖なる力を持つているのは女性なんです。女性が持つ聖なる力によって王を讃え、その力を増幅させる。歌謡としての『おもしろさうし』の役割はそのようなものであったと考えています。

しかし最近もつと深い起源を知るおもしろい発見がありました。NHKで動物言語学という立場から言語の起源を研究されている千葉大学の岡ノ谷一夫氏の番組を見たのですが、その方の説では動物たちも一定の決まりでうたっていると言っています。岡ノ谷氏は、子孫を残すための求愛の鳴き声がひとつのパターンをもつてうたとなり、それをもとに人間の言語ができあがったという学説を提示されています。うたの起源を探っている僕からすると、それはもうまさに、うたの始まりじゃないですか。うたは人間の文化だから人類以前にはなかったと考えられていましたが、動物の世界でもうたがあったとしたら、うたには生物としての必然性があるということになり、力を持つのは当然だと思えます。うたは、そんな考えを今度自分なりにまとめてみたいなと思っ

らうたわれるわけで、誰がつくったのか、誰がうたったのかは本来関係ないわけです。民謡とか童謡がまさにそう。うた自体に力があるからうたわれ続けるわけじゃないですか。そこがうたの歴史性みたいなものが刻まれているわけです。

ボーカロイドも誰がつくったかはわからないけど、うたがいからみんなうたう。最新のうたではあるけれど、根底にはうたが持つている表現の基本的な在り方を担っているんです。学生たちには、立ち止まってそんな、歴史性の深み、みたいなものを覗いてみてほしいんですよ。なぜ流行るかを突き詰めていくと、それはある種の普遍的な、深さ、が人々に求められ

ています。

初音ミクは現代における聖なるものの象徴

いま、ボーカロイド（ヤマハが作った音声合成ソフトウェア/VOCALOID。コンピュータ上で音符と歌詞を入力することでサンプリングされた人の声を元にした歌声を合成することができます。その代表的な歌手が初音ミク。）によってうたわされたうたがニコニコ動画、YouTubeなどにアップされて学生を中心に爆発的に人気を得ているんですよ。なんであんな不思議なうたが人気を得るのか、僕なんかにはさっぱりわからないんですけど（笑）。でもこれもひとつのうただということにはとても関心があるんです。ボーカロイドをテーマに論文を書いた学生がいるのですが、その発表を聞いている時にふと、大きなヒントを見つけたんです。それは、人間の声ではない、ということ。つまりこれも神の声と同じく聖なるものなんです。今の最新技術を駆使すれば、おそらく映像ももつと人間そっくりにつくれるんです。でもみんなバーチャルらしい初音ミクがいいわけですね。あえてデフォルメすることで自分たちの世界と

ているから。そんなことを考えてみてほしいなと思います。

視野が開かれる精華の授業

でも京都精華大学にこなかったらボーカロイドなんて研究対象にしていなかったでしょうね。学生たちの関心が広い世界に僕を向けさせてくれたんです。学生たちのほうが僕なんかよりもたくさんうたを聴いているから、いい意見を持っていたりするんです。授業のなかから自分の論文のテーマが見つかることもあります。僕の授業は体系立った学問を教えるという感じではなくて、むしろ学生とやり取りしながら自分も学んでいくという授業が多いです。たとえば、僕が学んでいた琉球大学の

は別の世界の人と位置づける。あえて人間ではない何かにしておく。つまり聖なる存在にしているんだと僕は考えているんです。

現代の人々はiPodなど携帯プレーヤーを持っていて、そのなかに何千万と曲を入れて聴いていますよね。本来うたは特別な条件のもと、つまり神様が降りてきた時、現代的に言うところ特別な気持ちの時にだけ聞く特別なものだったのに、ウォークマンが登場して以降は、常に聞くことができると同時に特別性とか聖性は薄まっていくわけです。しかし、現代も人はどこかで聖なるうたを求め続けている。だからある意味、ボーカロイドのうたっていうのは降臨してきた神のごとき初音ミクにうたわれる聖なるうたなんです。それをみんなでカラオケでうたったりする行為を通して、若者たちは聖なるものを回復しているのではないのでしょうか。人間は本質的に聖なるものを求める存在なんだと思います。うたを通してしばしば聖なる世界に行き、現実の自分を忘れる。そうすることでリフレッシュしてまた自分の世界に帰るんです。それは人間というものが発生した時からある行動じゃないかな。ある意味、安全装置的なものですよ。人間は現実の世界だ

国文学専攻だったりしたら、『おもしろさうし』はこういうものだと教員が上から説明するだけで終わってしまったかもしれない。でも京都精華大学は良くも悪くもそういう場じゃない。学生の反応を見ながら僕自身も話す内容を変えたり、学生と問題点を共有するために対象をより普遍化したりしてきた。そうすることで、僕自身の視野も開かれていくんです。学生たちと授業をするのはとても楽しいですよ。教える側が楽しくないと学生にも伝わらないかと思っ

2012年度京都精華大学 卒業・修了制作展をたどる。

2013年2月20～24日の4日間、「2012年度京都精華大学 卒業・修了制作展」が行われた。会場は、京都市美術館と京都国際マンガミュージアム。600点を越える個性豊かな作品が会場を飾った。4年間自分と向き合い、社会との接点をたぐりよせながら、制作に取り組んできた学生たち。そこには、等身大の自分なりのこたえが形となって現れていた。



京都精華大学の人文学部は、「体験」「学際」「国際」の3つが学びのキーワード。海外をふくめた現場におもむき体験しながら学び、いろいろな学問領域を融合させながら多様な観点から問題を考えられることをめざしてカリキュラムが組み立てられています。幅広い教養をそなえ、実践的な行動力とコミュニケーション力をもった人間を育成します。



4年間を通じてゼミで学ぶ

1年次の初年次演習から2、3年次のコース演習、4年次の卒業プロジェクトにいたるまで、人文学部では4年間を通じてゼミに所属して学ぶことができます。ゼミは少人数で構成されるため、教員や学生間でのゆたかな触れ合いを基盤として、活発なコミュニケーションが展開され、批判力や論理力が高められます。

大学の外で体験しながら学ぶ

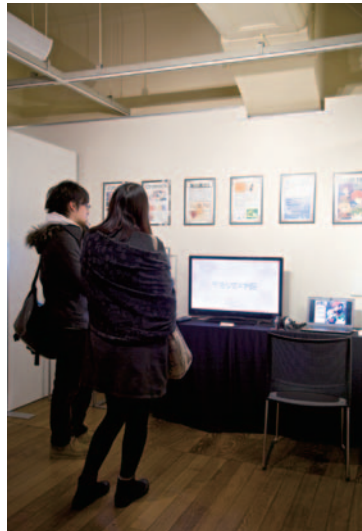
大学を離れ現場に足を運んで調査研究を行う、フィールドワーク。人文学部では日常の授業でもフィールドワークの手法を多くとり入れています。3年次の前期には半年間がまるまるフィールドワークにあてられます（※2014年度入学生より）。他にはない長期フィールドワークでは、人生のなかでも貴重な体験を得るはずです。

テーマにあわせた5つのコース編成

1年次で学部の全体像を把握したうえで自分のテーマをしぼりこみ、2年次からは「現代文化表現」「国際コミュニケーション」「日本・アジア文化」「環境未来」「現代社会と人間」の5つのコースに分かれてより専門性を深めます。自コースの科目を中心にしながらも、他コースの科目も履修することができるので、幅広い学びが可能になっています。

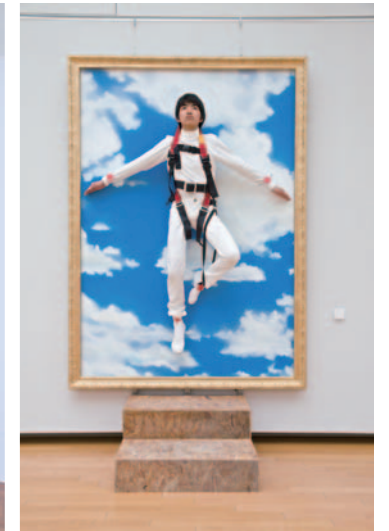
卒業論文で4年間の活動を表現

4年次には4年間の学びを卒業論文というかたちでまとめます。人文学部では文献研究以外の多様な学びのスタイルをとり入れているため、論文とあわせて映像作品、パフォーマンスなど実践的な知をかたちにした卒業制作にも取り組みます。実際に創作にたずさわることで思考が深まり、論文をゆたかにすることができます。



マンガ学部卒業制作サイトでは、2009年度から今年度まで卒業制作作品を閲覧できる。
<http://www.seika-mangaworks.jp/>

マンガ学部、マンガ研究科の卒業・修了制作展が行われた。
 教員によるトークイベントや大学院生による研究論文発表、学生による USTREAM 配信なども。
 4日間で7940人が来場した。



芸術学部、デザイン学部、芸術研究科、デザイン研究科の卒業・修了制作展が行われた。
 公開プレゼンテーションや合評会なども開催され、約1万人が来場した。

京都国際マンガミュージアム

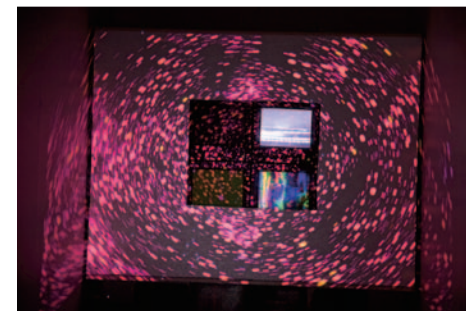


COLUMN02 「セイカウィーク 2013」も同時開催

卒業・修了制作展をふくむ精華生の展覧会を総じて「セイカウィーク 2013」と名づけ、京都市内の各ギャラリーが精華でうめつくされた。元・立誠小学校では芸術学部の映像コースと立体造形コースが小学校や教室を活かした作品展示「時空空間」[S]を行い、ギャラリー16では、洋画コース・大学院芸術研究科(洋画領域)の在学生・卒業生による作品展「科学のあとに詩をかくこと」を開催。そのほか、COCON KARASUMAにあるサテライトスペース kara-S では学生作品の販売などが行われた。



京都市美術館本館・別館



COLUMN01 京都を拠点に作家支援を行うギャラリストにきく

1月下旬から見てまわった各校卒業展の中で、京都精華大学展がもっとも感動的だった。学生たちが自信をもって社会へ出ていけるよう、愛情深く後押ししている展覧会だったのだ。主役である学生や作品は、彼らの未来の、潜在的なサポーターに必ず届くだろうと感じた。学生たちの顔にも達成感が溢れていた。制作指導をされた教員の方々はもとより、展覧会運営の実務に携わった人々が、現代社会と芸術大学の課題を真摯にとらえてこられた成果であると思う。展示計画、広報活動、シャトルバス運行などに、地道なリサーチの蓄積が見えるのである。欲を言えば、精華大学特製ペーパーホルダーを配布していただけると、各会場で集めた目録や名刺やプログラムを保存しておけるのでありがたい。コース毎に発行される印刷物の形態が統一されるともっと嬉しい。ギャラリストとして、卒業・修了展という大きなエネルギーの塊の一端でも引き受けることができたら本望だ。学生には、ギャラリー間の新人争奪戦に巻き込まれることなく、可能性をのびのびと伸ばしていただきたいと思う。私は卒業・修了作品1点で答を出しません(笑)、3年待ちますからそのとき互いに頑張っていたら一緒に仕事しましょう。

松尾 恵 (ギャラリスト/MATSUO MEGUMI +VOICE GALLERY pfs/w 代表)

01

大学院芸術研究科生が「シャージャ・ビエンナーレ11」に参加

芸術研究科博士前期課程2年生の笠原美希さんが、アラブ首長国連邦で開催される「シャージャ・ビエンナーレ11」に参加する。

第11回目となるシャージャ・ビエンナーレは、東京都現代美術館のチーフキュレーター、長谷川祐子氏がキュレーターを務める。イスラム式建築において、プライベートな空間でありながら、パブリックな場所としても機能する「中庭(courtyard)」をテーマに、さまざまな人が行き交う新たな文化のランドスケープを作り出すことをコンセプトとして展開される。

世界的に活躍するアーティストが名を連ねる中、若い才能を期待された笠原さんが招待されたことは大変名誉なことである。

「シャージャ・ビエンナーレ11

(Sharjah Biennial 11)」

会期：3月13日～5月13日

会場：アーツ・アンド・ヘリテージ・エリア／シャージャ／アラブ首長国連邦 (Arts and Heritage Area / Sharjah / UAE)

主催：シャージャ芸術財団 (Sharjah Art Foundation)

キュレーター：長谷川祐子 (東京都現代美術館チーフキュレーター)

生運動まっただに青春を過ごし、現在は大学の教員として学生と接している。一方、古市氏は自身も20代でありながら若者の生態を的確に描出した著作を出版している。それぞれの立場から自由に対する考えが述べられ、自由が死語とされる現代をどうとらえるか、社会に対して感じる壁の存在、若者の自分探し、不自由さのなかに生まれる自己肯定など、現代をどう生きるべきかを問う内容となった。



04

エルメス製作ドキュメンタリー『ハート&クラフト』上映会＋トークイベントを開催

昨年11月21日にアセンブリーアワー講演会の特別編として、映画上映会とトークイベント形式の「シアターアセ

出展作家：笠原美希 (大学院芸術研究科博士前期課程2年生)、オノセイゲン＋坂本龍一＋高谷史郎、中谷芙二子＋高谷史郎、井上有一、島袋道浩、占部史人、ほか



<http://www.sharjahart.org>

02

「セイカファンクラブ」発足

京都精華大学の文化・芸術教育などの取り組みを支援する「セイカファンクラブ」が発足した。

会員になると京都精華大学が開催する講演会やイベントなどの情報が得られるほか、会員限定特典として公開講座ガーデンの受講料割引や京都国際マンガミュージアム入館料割引、情報館の利用証などのサービスが受けられる。なお、現在は申込初回特典としてオノヨーコ氏による40周年記念イベントを記録した完全オリジナルDVD (非売品) をプレゼントしている。(※数に限りがあるため在庫が無くなり次第終了)

ンブリー」を開催した。

前半はエルメスの製品制作に携わる職人たちを追ったドキュメンタリー映画『ハート&クラフト』を上映。後半では、エルメスジャパン代表取締役社長の有賀昌男氏と、エルメスの社史をマンガ『エルメスの道』で描いたマンガ学部ストーリーマンガコース・竹宮恵子先生によるトークイベントを開催。イベント参加者はエルメスを支える職人の精神性や意識の高さに驚いた様子であった。また、有賀氏と竹宮先生による『エルメスの道』制作秘話などに熱心に耳を傾けていた。



05

「京都おばけ祭」開催

「京都おばけ祭」が2月1～4日間で京都府内各所で催された。同祭は非

03

岡本清一記念講座にて、高橋源一郎氏と古市憲寿氏の対談を開催

京都精華大学・初代学長の岡本清一氏が掲げた建学の理念を検証することを目的に、日本と世界を考える講演会「岡本清一記念講座」が2008年より開催されている。

今年は大卒の礎である「自由自治」の精神に基づき、「現代における『自由』とはなにか」をテーマにした対談が行われた。対談者は小説家である高橋源一郎氏と、若手の社会学者として注目を浴びる古市憲寿氏。高橋氏は学



セイカファンクラブ

06

教員の活躍

著作をはじめ、展覧会、作品発表など、京都精華大学の教員の活躍を紹介する。

◎著作 (2012年11月～2013年2月発行)

『日本の文字―「無声の思考」の封印を解く』

石川九楊 (ビジュアルデザイン学科教員／書家)／筑摩書房

漢字、ひらがな、カタカナ、三種類の文字をもつ日本語。これはどこに由来し、日本人の内面に何をもちたのか。日本文化の不思議さをさぐり、日本とは何かという問いの核心に迫る。

『可笑しなヘンタイ図鑑』
イラスト…タナカカツキ (デザイン学
部客員教員/マンガ家) / 宝島社
おもしろくも悲しいヘンタイさんた
ちをイラストとともに紹介した一冊。

『京都遊び 三十三景』

山本容子 (ビジュアルデザイン学科客
員教員/銅版画家) / 朝日新聞出版
大学時代を過ごした思い出の街であ
る京都の名所、四条・寺町界隈から六
波羅、叡山電鉄沿線までを銅版画と
エッセイで紹介。

『山本容子のアーティスト図鑑 100と19のポートレート』

山本容子 (ビジュアルデザイン学科客
員教員/銅版画家) / 文藝春秋
作者が偏愛するアーティストを描い
た版画と、絵画制作を通じて彼らと対
話することで浮かんだ短い文章を集め
た、オールカラー豪華本。

『ミュージコフィリア』5巻

さそうあきら (マンガ学部教員/マン
ガ家) / 双葉社
幼い頃、自分からピアノを奪った義
兄・大成、遠く離れた東京でシンガー
として歩み始めた恋人・凧。主人公・
朔に待ち受ける未来とは!? 音楽中毒
者たちが奏でる青春協奏曲がついに
フィナーレを迎える。

スコロブドリの伝記』がアニメーショ
ン部門優秀賞を受賞した。また、マ
ンガ学部ストーリーマンガコース・さ
そうあきら先生の作品『ミュージコフィ
リア』がマンガ部門審査委員会推薦作
品に選出された。

同芸術祭はアート、エンターテイン
メント、アニメーション、マンガの4
部門においてすぐれた作品を顕彰する
とともに、受賞作品の鑑賞機会を提供
するメディア芸術の総合フェスティバ
ル。本学マンガ学部教員の竹宮恵子先
生 (マンガ部門)、『デザイン学部客員
教員の伊藤ガビン先生 (エンターテイ
ンメント部門)らが審査員を務めた。
受賞作品は2月に国立新美術館 (東
京・六本木) をメイン会場に展示・紹
介された。

08 芸術研究科生が「第19回松柏美術 館花鳥画展」大賞を受賞

芸術研究科修士課程1年生の田中翔
子さんの作品『En automne (アンノ
トン)』が「第19回松柏美術館花鳥画展」
において大賞を受賞した。
同展は花鳥画の真にあるべき姿を考
え、模索する50歳以下の若い作家の育
成と伸長を目的として開催。全国公募
により集まった77点の日本画作品の中
から入選作品25点が選ばれた。

『The Heart of Thomas』
「トーマの心臓」萩尾望都 英訳
マット・ソーン (マンガ学部教員/マ
ンガ研究者) / Fatgraphics Books
透明な季節を過ごすギムナジウムの
少年たちに投げかけられた愛と試練と
恩寵。今もなお光彩を放ち続ける萩尾
望都初期の大傑作を英訳。

『震災ニッポンはどこへいく 東浩
紀対談集…ニコ生思想地図コンプ
リート』

竹熊健太郎 (マンガプロデュースコー
ス教員/編集家) 他/ゲンロン
ニコニコ生放送の人気番組「ニコ生
思想地図」が完全書籍化。ネット、文
学、科学、政治など、各分野の最先端
を行く14人のゲストが、東浩紀を相手
に3・11後の日本を語る。

『吉本隆明という「共同幻想」』
呉智英 (マンガ学部客員教員/評論
家) / 筑摩書房

難解な吉本隆明思想とその特異な読
まれ方について、明快な筆致でずばり
と論じ切った、書き下ろし評論。

『サウンドスケープのトビラー音育・
音楽・音創のすすめ』
小松正史 (人文学部教員/音楽家・音
風景研究者) / 昭和堂
音をきくこと、音を分析すること、
音をつくること。音に気づくよろこび
(サウンドスケープの知覚) からサウ



『En automne』田中翔子

09 デジタルクリエイションコー ス学生が「HTML5ゲーム コンテスト for スマート フォン」ベストゲーム賞を受賞

4Gamer.net x アプリアンドレ
ビュー Presents 「HTML5ゲー
ムコンテスト for スマートフォ
ン」において、デザイン学部デジタル
クリエイションコースの学生が「ベス
トゲーム賞」(アプリアンドレビュー
賞)を受賞した。同コンテストは学生
を対象とした、スマートフォン用ゲー
ムアプリのコンテスト。企画書による
一次審査と、実際に開発したゲームに
よる実装力・デザイン・操作性をみる
二次審査を経て受賞作品が選ばれた。

【ベストゲーム賞】
『MIRROLE (ミラル)』
蚊野佳美、高阪沙織、西仁美、ポー
ルセン・ビツダ、熊倉梨恵、作美幸
(デザイン学部デジタルクリエイショ
ンコース3年生)

【アプリアンドレビュー賞】

ンドスケーピング (音風景をつかった
具体的な行為) へ。

『人生を変えたければ「桜井章一」
を見よ!』

名越康文 (人文学部客員教員/精神科
医) / 成美堂出版

20年間無敗の雀士と気鋭の精神科
医という異色コンビが贈る、不透明な
時代の歩き方指南書。

◎DVD発売

『グスコロブドリの伝記』[Blu-ray]
杉井ギサブロー (アニメーション学
科教員/監督・脚本)、前田庸生 (アニ
メーション学科教員/アニメーショ
ン監督) バンダイビジュアル
昨年劇場公開された宮沢賢治原作
のアニメーション映画『グスコロブ
ドリの伝記』がDVD化。

07 「文化庁メディア芸術祭」にお いて大学院美術研究科修士 教員が受賞

「第16回文化庁メディア芸術祭」に
おいて、大学院美術研究科修士生の
前田真二郎さん (SOL CHORD) の
作品『BETWEEN YESTERDAY &
TOMORROW』がアート部門優秀賞を
受賞、マンガ学部アニメーションコー
ス・杉井ギサブロー先生監督作品『グ

『The SWEETURN』

亀井彩代、松阪実幸、中尾信吾、鍋田
悟 (デザイン学部デジタルクリエイ
ションコース3年生)

10 版画コース4年生が「全国大学 版画展」収蔵賞を受賞

「第37回全国大学版画展」において、
版画コース4年の二エト・アルベルト
さんと平田彩乃さんが、町田市立国際
版画美術館収蔵賞を受賞した。

11 グラフィックデザインコース 3年生が「京都広告賞」学生グ ランプリ賞を受賞

デザイン学部グラフィックデザイン
コース3年生の西川奈央さんと浅田麻
弥さんが「第22回京都広告賞」におい
て学生グランプリ賞を受賞した。同賞
は、若いクリエイターの育成とクリエ
イティブ能力の向上、広告活動の啓蒙
及び広告文化への寄与を目的に、京
都広告業協会が開催。入賞作品は昨年11
月に京都市内の会場にて展示された。





「期待の結晶」稲田善行（2011年度 洋画コース卒業制作）

12 在学生・卒業生が「2013京都美術ビエンナーレ」で入賞・入選

「京都府美術工芸新鋭展 2013 京都美術ビエンナーレ」公募部門において、芸術学部テキスタイルコース卒業生の米田知世さんがNHK京都放送局長賞を受賞、そのほか芸術学部および大学院芸術研究科の在学生・卒業生らが多数入選した。

同展は、若手芸術家の活躍の機会を提供するとともに、その才能の発掘と育成を図り、京都における文化芸術の振興を目的として開催。全国公募により約30点の作品が選出された。

また、京都の新鋭作家を紹介する選抜部門においても、本学卒業生5名が選抜され出品した。

【公募部門 NHK京都放送局長賞】
米田知世

（芸術学部テキスタイルコース卒業）

【公募部門 入選】

木村桃子

（芸術学部テキスタイルコース3年生）

中野茜

（芸術学部立体造形コース4年生）

岡本里栄

（芸術研究科博士前期課程1年生）

中嶋悠輔

（芸術研究科博士前期課程1年生）

秦愛美

（芸術学部テキスタイルコース研究生）
藤野裕美子
（芸術研究科博士前期課程2年生）
玉井佐知
（芸術研究科博士前期課程修了）

【選抜部門 出品作家】

山本哲也（美術学部陶芸専攻卒業）

阿部大介（美術学部版画専攻卒業）

芳木麻里絵（美術学部版画専攻卒業）

平野知映

（芸術研究科博士前期課程修了）

眞鍋享子

（芸術研究科博士前期課程修了）

13

テキスタイルコース、デジタルクリエイションコースの学生が「THE COMPEーきもの帯」で入賞

京都市内の学生を対象としたデザインコンペ「THE COMPEーきもの帯」において、芸術学部テキスタイルコース3年生の畑本千波さんとデザイン学部デジタルクリエイションコース3年生の西野早紀さんが入賞、そのほか在学生・研究生3名が入選した。

【京都商工会議所会頭賞】

「Rock climber」

畑本千波

（芸術学部テキスタイルコース3年生）

【京友禅協同組合連合会理事長賞】
「夜空」
西野早紀（デザイン学部デジタルクリエイションコース3年生）

【入選】

「鱗ーナポレオンフィッシュー」

畑本千波

（芸術学部テキスタイルコース3年生）

「蓮雅」

泉末帆（デザイン学部デジタルクリエイションコース3年生）

「涙を纏う」

秦愛美（芸術学部テキスタイルコース研究生）

14

卒業生が「ちばてつや賞ヤング部門」準大賞受賞

マンガ学部ストーリーマンガコース卒業生の本田創さんの作品「サンライズ」が「ちばてつや賞ヤング部門」で準大賞を受賞し、講談社「ヤングマガジン」50号に掲載された。また同賞において、同コース卒業生の矢田恵梨子さんの作品「青空ピアニキスト」が優秀新人賞を受賞した。

セイカ事典 た行

京都精華大学に関わりの深い人、事、物を解説する。

た

タトリンのモニュメント

【たとりのもにゅめんと】

1979年、ウラジミール・タトリンの「第三インターナショナル塔（縮尺模型）」として、美術学部の学生によって建てられたモニュメント。木野祭期間中に建てられた。

ち

地球フォーラム【ちぎゅうふぉーらむ】

2000年4月17日、「環境と人間～新しい生き方を求めて」というテーマで、国立京都国際会館にて行ったシンポジウム。ダライ・ラマ14世を招聘し、心理学者のレオ・マトス氏、本学教員らがパネラーとして登場した。その前日には、ダライ・ラマ14世の講演会も開催。2日あわせて3400名の定員に対して、2万通以上の応募があった。

つ

樋田 劭【つちだたかし】

1935-。物理学者。1979年から2001年まで美術学部、人文学部教員。工業文明の犯罪性に絶望し、科学を捨て、京都大学を辞し、本学へ赴任した。脱原発の主張、農家と消費者をつなげる活動などを精力的に行う姿や思想から、学生は多くのことを学んだ。

て

デザイン学部【でざいんがくぶ】

2006年にできた学部。今春からはイラスト学科が加わり、ビジュアルデザイン学科、プロダクトデザイン学科、建築学科の4学科（6コース編成）に。

と

トウルクアーツアカデミー

【とうるくあーつあかでみー】

協定校のひとつ。フィンランドにある芸術系大学。2003年に一般協定を締結した。ちなみに、本学の海外協定校は現在9カ国、25大学に及ぶ。



研究室探訪

先生の研究室、授業を訪ねて。

人文学部 サコ研究室

Oussouby SACKO ウスビ・サコ

人文学部教員。マリ出身。京都大学大学院にて建築学を専攻。居住空間における人間の行動を調査、専門とする。2013年4月より人文学部長に就任予定。

アフリカのマリ共和国に生まれた、ウスビ・サコ先生。建築を学ぶため1991年に来日。個人が場所を占有する感覚のちがいにマリと日本の文化性を発見し、居住空間と人との関わりについて研究を重ねている。

そんなサコ先生のゼミでは、コミュニティと人の関わりをテーマに文献研究、現地調査を行う。アグレッシブに現地に飛び込むのが特徴だ。

「カフェ」をテーマにした年は、毎週異なるカフェでゼミを行った。今年度は「再生」をテーマに、リノベーションした町家カフェや村おこしに取り組み地域、瀬戸内のアートの島々を訪れ、再生はほんとうに必要なかを検証した。研究対象となる空間に身を置き、空間とそこに関わる人を観察、聞き取り調査を行っている。

「学生に考えさせる出発点は、自分がいまいる空間を理解させること」とサコ先生。この出発点づくりが、サコ先生の役目というわけだ。現地で自分との接点を見つけた学生たちは、おもしろさに気付いていく。なぜみんなカフェにきているんだろう。この村の人は、アート事業に賛同しているのか。こうした問いと発見の連鎖が起こるとゼミのディスカッションは盛り上がる。問いの答えを探ろうと、ゼミが終わったあとも、LINEを用いて学生だけでディスカッションの続きをしていることもあるという。

「普段の生活のなかには、意識すると文化が見える。宝物、がいつぱいある。それに気付いてほしい。」

宝物の存在に気付いたゼミ生は、トイレを最高の個人空間と捉えて研究したり、地元の人と賛同できる地域活性化のアイデアを提案したりと、独自の視点で卒業論文を書き上げた。

Book Review

教員のブックレビュー

デザイン学部・井上斌策先生が選ぶ「通説の対極から世界を知る」本

僕は、一方の視点から書いたものがあれば、その反対側から見た本も読む。そんな読書歴ですね。歴史やさまざまな立場の人間の意見を知ること、自分の立ち位置がうかがいあがってくる。それこそが本の魅力だと思います。

最近読んだ『天皇と東大』は、維新の時代を描いた本のなかでも特別にもしろい。東京帝国大学は明治10年に誕生し、明治、大正、昭和と天皇を支える仕官を育成する場所でした。その内部では、教員らの主義・思想の闘争があり、それが日本の行く末を決定する出来事になる様が膨大な資料をもとに描かれています。東大からみた近代史が浮き彫りになっていくんです。また、舞台が大学という点も興味をひきつけられた理由ですね。外部からの

揶揄をもちとせず、主張を貫いた学長や学者がいた。国家や社会に対していい・わるいではなく、左翼も右翼も意見を言える場は、大学しかない。大学とはどういう場所か、教職とはどうあるべきか。大学に身を置く人間として学ぶことが大きかったですね。自分では持ち得ない、時代に流されない根性や意志をもった人間の強さを感じます。

『旅する巨人』は、アカデミズムの世界では正当な評価を得ていない宮本常一の業績に光を当てた一冊。宮本は自分の足で日本津々浦々、人の声を拾い集めた民俗学者ですが、彼にはパトロンがいた。それが、渋沢敬三です。日銀総裁や大蔵大臣を務めながらも、経済の世界より学問の世界を好んだようです。宮本に自宅の一部を開放し、旅の資金援助を行っていた。ふたりが



井上斌策

デザイン学部プロダクトコミュニケーションコース教員。プロダクトデザイナー。大手弱電AV機器、自転車、魔法瓶、コンピュータ機器、ステーションナリーなど幅広い分野で国内外のグッドデザイン受賞多数。



『天皇と東大』I～IV
立花 隆 (文春文庫)



『旅する巨人』
一宮本常一と渋沢敬三
佐野真一 (文春文庫)



『イスラムから見た世界史』
タミム・アンサーリー
(紀伊國屋書店)

西洋版の世界史の後景に追いやられてきたムスリムたちが自ら語り伝えてきた歴史を紐解く。もうひとつの「世界史」。

日本近現代史の最大の役者は天皇であり、中心舞台は東大だった。明治・大正・昭和を画期的な視点で解説する畢生の大作。

生涯をかけて明らかにしようとしたのは、政治家や財閥ではない、市井の人の営みや歩み。そこに日本人の歴史をみようとしたのです。とくに僕は渋沢の生き方にひかれ、こんなかつこいい男がいたのか、と驚きましたね。

3冊目の『イスラムから見た「世界史」』も、世界の通説を変えた一冊。9・11後に書かれたものですが、僕たちが習ってきた西欧や東洋の歴史とはまた別の角度からの文明や思想を明らかにしました。

僕はひとつの時代だけ、ある一方の意見だけを知って判断するのではなく、時代の背景やさまざまな見方や意見があることを知って、ものをつくりたい。そんなデザインへの考え方が、読書歴にも現れているのかもしれないな。

イベント紹介

京都精華大学に関するイベントをご案内します。一般の方も聴講、参加いただけます。

◎デザイン学部建築学科・連続レクチャーシリーズ

「2013年前期プログラム
可能性の空間「空間論演習1」」

建築コース教員、ゲスト講師が空間をめぐる対談や講演を行います。

【日時】 4月20日(土)13時～14時30分
永田宏和(△△△副センター長)

【日時】 4月27日(土)13時～14時30分
大西麻貴
(建築家/京都精華大学客員教授) ほか

【場所】 京都精華大学 風光館70501

【申込】 不要
【問い合わせ先】 京都精華大学デザイン学部建築学科

architec@kyoto-seika.ac.jp

◎ギャラリーフロール展覧会
京都精華大学が運営する大学ギャラリィでの展覧会です。

「M1展
京都精華大学大学院博士前期課程
一年生展」

芸術研究科・デザイン研究科1年次に制作した作品の展覧会。

【期間】 4月16日(火)～29日(祝・月)

ギャラリーフロール

【開館時間】 11時～18時

【休館日】 日曜日・祝日ほか

【場所】 京都精華大学 明窓館1階
詳細はギャラリーフロール
Webサイトまで
www.kyoto-seika.ac.jp/fleur/

◎京都国際マンガミュージアム展覧会

「スケッチトラベル展」

「スケッチトラベル」プロジェクトによって描かれた、アニメ、マンガ、イラスト、絵本の各界を代表するアメリカ、ヨーロッパ、アジア、そして日本のアーティスト71人によるイラスト(複製原画)を展示。

【日時】 開催中～6月2日(日)

【場所】 京都国際マンガミュージアム
2階 ギャラリー6 ほか
館内各所

「Kyoto Magic 展覧会
シエ「魔法の魔法の魔法」

「Kyoto Magic」プロジェクトで制作された安野モヨコの魔法少女マンガ「シユガシユガルーン」からインスピレーションを得たファッショント「シユガシユガルーン」連載当時の関連資料の展示。

【日時】 開催中～6月9日(日)
【場所】 京都国際マンガミュージアム
2階 ギャラリー4



© 安野モヨコ / 講談社

「寺田克也 ココロ10年展」

マンガ家、イラストレーター寺田克也氏のカラーイラストや設定画など作品(原画を含む)約300点を展示。関連イベントとしてライブドローイングやトークショーも開催。

【日時】 開催中～6月30日(日)

【場所】 京都国際マンガミュージアム
2階 ギャラリー1～3

京都国際マンガミュージアム

【開館時間】 10時～18時(入館は17時30分まで)

【休館日】 水曜日、3月21日(木)ただし3月20日(祝・水)、5月1日(水)は開館

詳細は京都国際マンガミュージアムWebサイトまで
www.kyotomj.jp/

Information

精華で学びたい方へ

京都精華大学が行う受験生・高校生向けイベントや入試情報を紹介します。

2013年度オープンキャンパスの日程が決定

2013年度のオープンキャンパスの日程が決定しました。先生との個別相談をメインとする「相談会型」と、授業を体験できる「体験型」との2タイプを開催。毎回異なるメインプログラムを通して大学の特徴を知ってもらえる内容になっています。また、各コースの学生作品の展示や、持参作品へのアドバイスなどは毎回行います。

■日程・プログラム

4月28日(日)10時～16時 体験型
・大学案内パンフレット、入試要項プレゼント

・大学紹介プログラム
・コース別 授業体験ワークショップ
・AO入試説明会
・大学院1年生による展覧会「M1展」ほか

6月8日(土)・9日(日)10時～16時 体験型

・キャリアサポート紹介
・卒業生によるトークイベント
・コース別 授業体験ワークショップ
・コース別 AO入試対策プログラム
ほか

7月27日(土)・28日(日)10時～16時 体験型

10月6日(日)10時～16時 相談会型
詳細は、本誌「木野通信」やオープンキャンパス特設Webサイトに順次ご案内していきます。



www.kyoto-seika.ac.jp/opencampus/



2014年度大学案内パンフレット、入学試験要項は4月下旬に発行

2014年度大学案内パンフレット、入学試験要項は、4月下旬に発行します。4月28日のオープンキャンパス参加者には、いち早くお渡しします。

発送は5月下旬より随時行いますので、左記連絡先かWebサイトよりご請求ください。

受験生フリーダイヤル

0120-075017

nyushi@kyoto-seika.ac.jp

京都精華大学の原点 第4回 『京都精華大学をかたちづくった言葉たち』

京都精華大学の前身である京都精華短期大学が1968年に創立されて、44年になる。多数の卒業生を輩出し、学部数、学生数も増え、たしかな発展を遂げる一方で、「精華らしさがなくなっている」という声も聞こえてくる。たしかに創成期を直に知る教職員もほとんどいなくなり、新しく参加したメンバーや入学した学生には「自由自治」という言葉だけが抽象的に響いているのかもしれない。そんな現在だからこそ、京都精華大学における「自由自治」とは何なのか、いま一度語られなければならない。45周年を迎え、新学部、新学科の開設など大きな飛躍を迎えようとする2013年を前に、京都精華大学の教育理念や存在意義、なぜ生まれ、どこへ向かうべきなのか——そうした京都精華大学の原点を探求するのがこの連載の目的である。

「京都精華大学の原点」には初代学長・岡本清一の理念があり、彼の言葉はいまでも京都精華大学のここかしこに息づいている。こうした岡本清一の言葉は以前紹介した。一方、京都精華大学に参加したひとたちも、多くの言葉を残している。「京都精華大学とはどういう大学なのか」「京都精華大学はどのような考えで運営されてきたのか」がわかるものも少なくない。それらをいま一度たどってみることで、京都精華大学がどのようにかたちづくられてきたかを知り、何を継承すべきかを知ることができる。もはやあまり目にする事ができない貴重な資料から紹介する。

※（ ）内の所属、肩書はすべて発表当時のもの。

自由自治の精神 深作光貞「学長」

本学では創立以来、人間を尊重し人間を大切にすることを基本理念としている。われわれはこれを「自由自治の精神」と表現しているが、本学の一〇年の歴史はこの精神をどのように実現するかということだった、といつてもよい。その精神は、この大学社会を構成する教職員・学生が人間として平等であるという考えを貫くことである。（中略）しかしこの精神も、大学構成員ひとりひとりの自主性に支えられなければならない。実際には何の意味もない。またこの精神を理解し、積極的に大学社会に参加する意味を理解しなければ、どんな知識や技術もほんとうに生きてはこないだろう。本学では、ベルトコンベアの上にならべられて加工されるような、人間を「型」にはめこむ教育は絶対に排除したいし、暗記力のつよさや断片的な知識の豊かさを評価しないのである。

（1979年度 京都精華大学
大学案内）

自由というのは 江戸頌昌（中原佑介）「学長」

自由というのは、この画一化に対する個性的という努力によって得られるものである。私は本学のモットーである自由はそういう意味での自由であり、それがそのまま人間の形成を意味するものだと考えている。つまり、大学という場を通じて、学生ひとりひとりが自ら人間の自由な思考力や想像力をつくってゆくということである。われわれの大学で個性を深めてゆくことに、新しい学生諸君が参加することを心から歓迎したいと思う。

（1982年度 京都精華大学
大学案内）

憧れの大学でした 柴谷篤弘「学長 人文学部教員」

長い間憧れていました。ここは解放区のようになっている特異な大学です。大学紛争のあと多くの大学がうまくいけなくなりましたが、その時東大などを辞めた先生が京都精華大学に多く移られました。その筆頭が日高六郎さんで、樋田勲さんも「京大はいやや」と工学部を辞めて来られた。一九七〇年代には精華大にそ

う雰囲気があったので、憧れていたのです。ですから、人文学部を新設するので生物学の教員として来ないか」と誘われた時は、大喜びで二つ返事で引き受けました。（中略）それと、ここでは教授・助教授・講師という区別がないみたいですね。部屋の表示や時間割、職員名簿にも「教授」とは書いていません。だから学生達にそういうすりこみが無いのが良いかも知れませんね。

（初出誌、年月日不明）

教育のなかの自由と平等 日高六郎 「短期大学英語英文科教員」

岡本先生というのは非常におもしろい人です。事務職員にしっかりと入った人を入れようと考えた。当時一九六五年ごろ八、九年あたり、いわゆるベトナム反戦運動、やがて沖縄奪還闘争が盛り上がりつつあった時代です。岡本さんは同志社大学の中で学生運動のリーダーや活動家だった人を事務職員にいられたのです。発想が非常に奇想天外ですよ。京都府学連委員長とか、何とかね。機動隊に頭をぶん殴られて、大げがをした人とかね。あるいは全共闘運動の時に、京都大学の事務職員をしている人で捕

まって起訴されてしまった人がいた。その人は起訴されたのですが、岡本さんはその人を事務局にいれました。（中略）岡本さんは、そういうひとの方が学生をよくわかるという意見なのです。

（中略）そして大学ができて三年経ってから事務局から問題が出されたのです。なぜ自分たちは同じように働いていて、教員と自分たちと給料が違うのか、これを全体で討論しようというわけです。京都精華大学での最高決議機関は、全体集会で、それには教員・職員・用務員さん全部がでるわけです。そこでは用務員さん席とか事務職員の席とか区別がない。みんなごちゃ混ぜです。そしてどんな事務職員から発言もできてね、それは活発ですよ。教員がやりこめられることも、しょっちゅうです。そして給与の平等性が実現したのです。

（『法政平和大学講義録2』
1989年7月）

原発訴訟から京都精華大へ 樋田勲 「美術学部教員のち人文学部教員」

（伊方原子力発電所の）裁判に際して、住民は協力してくれる証人を求めて専門家の中を捜し

歩きました。しかし、協力してく

れる専門家など誰もいませんでした。なぜいないのでしょうか。国策に逆らうような裁判に協力したら原子力村から村八分にあつて、研究予算がとれなくなるからです。それで住民が困り果ててついに私のところに来たのです。（中略）一九七八年の四月に出た判決は次のようなものでした。「国側の主張を認定する」。（中略）この判決を読んだ公害問題に好意的な法学者が「高度の科学技術に関する問題は裁判になじまない」と言いました。比較的良心的な法律家の発言ですから、私たちの裁判が負けたことに対する弁護のつもりでした。しかし、この発言は決定的に間違っています。なぜならば、そんなことを言ったら民主主義の原則を否定することになってしま

うからです。専門家の言ったことを是として、素人は判断できないから問答無用で従うべきだ、と分立の法律家の判断もいらないと言うのであれば、この社会はどうなるのでしょうか？

私は判決を聞いた日に、四国から関西汽船の夜の船室中でまったく寝られませんでした。仕方なしにずっと船の手すりにもたれて、彼方へと流れる黒い海を見ていました。その時に、「僕はもう科

学者を辞めよう」と思いました。それで私は京都大学を退職して、京都精華大学の美術学部の教師になります。

（「atプラス10号」『原発と「科学」』2011年11月）

京都精華大学がいまここにこうしたかたちであるのは、もちろんいまのメンバーだけでつくったわけではない。過去の先輩たちが営々とつくりあげてきたものを引き継いでいがあるのだ。過去の蓄積の上に、いまのわたしたちがどれだけかを積み上げていく。そうした歴史との応答がそもそも大学というものだ。

そう。ここでは精神のリレーがおこなわれている。歴史を超えて手渡されたリレーのバトンには、いまわたしたちの手の中にある。このバトンをより遠くへと運ぶことが受けとったものの責務だ。

バトンを次の世代に引き継ぐためには、過去に語られてきた言葉を噛みしめなければならない。

京都精華大学とは

京都精華大学は表現の大学です。2013年4月にポピュラーカルチャー学部を開設。さらに、デザイン学部にはイラスト学科、マンガ学部にはギャグマンガコース、キャラクターデザインコースを新設します。ポピュラーカルチャー、芸術、デザイン、マンガ、人文あわせて5学部編成となり、新しい文化と社会を創造する人材育成をさらに進化させていきます。

ご支援くださるみなさまへ ～ご寄付のお願い～

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。

「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付用途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。

この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。

詳細につきましては寄付募集 Web サイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集 Web サイト

www.kyoto-seika.ac.jp/donate

●お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当

TEL : 075-702-5201 / FAX : 075-702-5391 E-mail : kikaku@kyoto-seika.ac.jp

◎卒業生の方へ

「木野通信」送付先住所の変更は、企画室・木野会事務局までご連絡ください。

E-mail : kinokai@kyoto-seika.ac.jp FAX : 075-702-5391

木野通信 KINO PRESS

57

木野通信 第57号

2013年3月20日 発行

京都精華大学 入試広報部 広報課

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL : 075-702-5197

www.kyoto-seika.ac.jp

木野通信とは、京都精華大学が年4回発行する広報誌です。

京都精華大学

ポピュラーカルチャー学部 (2013年4月設置予定) / 芸術学部 / デザイン学部 / マンガ学部 / 人文学部

〇〇を語れ 第4回 『大学』

京都精華大学にまつわるキーワードを世界中から集める企画。

京都精華大学は、学生運動の紛争のさなかに誕生した大学だ。「大学」とはどういう場であるべきか、考え続けてきた。学生と教員と職員、すべての構成員が平等であり、なんの制約にもとられない自由な場こそ、京都精華大学がめざす大学だ。私たちが考え続ける「大学」についての言説を、世界中から集めた。

短き勤務の割合に多額の俸給を国家から支給され、地位を保証され老後を保証されてゐる大学の教授だけが、時間と精力とを要し而も報ひられない。下積の仕事をなす義務がある。(河合栄治郎『書齋の窓』)

小学時代は 優等生
中学時代も 優等生
高校時代も 優等生
どうして大学八年生
ああ 悲しき わがころ
勉強になりました
(ハナ肇とクレイジーキャッツ「悲しきわがころ」)

満男「じゃ、何のために勉強するのか？」
寅「え、そういう難しい事は聞くなって言っただろう。つまり、あれだよ、ほら、人間長い間生きてりゃいろんな事にぶつかるだろう。な、そんな時、俺みてえに勉強してない奴は、この振ったサイコロの出た目で決めるとか、その時の気分で決めるよりしょうがないな。ところが、勉強した奴は自分の頭で、きちんと筋道を立てて、はて、こういう時はどうしたらいいかな、と考える事が出来るんだ。だからみんな大学行くんじゃないか、そうだろう。」
(映画「男はつらいよ 寅次郎サラダ記念日」より)

いい大学に行って、いい会社や官庁に入ればそれで安心、という時代が終わろうとしています。
それでも、多くの学校の先生や親は、「勉強していい学校に行き、いい会社に入りなさい」と言うと思います。勉強していい学校に行き、いい会社に入っても安心なんかできないのに、どうして多くの教師や親がそういうことを言うのでしょうか。それは、多くの教師や親が、どう生きればいいのかを知らないからです。勉強していい学校に行き、いい会社に入るという生き方がすべてだったので、そのほかの生き方がわからないのです。
(村上龍『13歳のハローワーク』)

大学も、そういうリッチな時間つぶしの場にならばいいのです。(中略) 学問も芸・芸能の一種だと考えたら、どだい芸能というものはすべてなんの役にも立たないものです。しかし、芸能には芸能の存在価値がある。「それがなんの役に立つのですか」という問いは、学芸の楽しみを求めるヒトには、そもそも禁句というものです。
(上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』)

大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。
(『学校教育法』第九章大学 第八十三条 第一項)

大学の道は明德を明らかにするにあり、民を親しむにあり、至善に止むるにあり。
(『大学』)